

ネパールでASPAC総会開く
国際キワニスアジア・太平洋地区
カトマンズ大会 2020/3/7~3/10

コロナの影響で入国禁止となる直前に開催され、日本地区からは29名、うち東京クラブからは9名が参加しました。
大会の公式行事終了後、各国のキワニス会員が参加するさまざまツアーが催され、マレーシアのクラブが計画したツアーに飛び入りで参加した佐伯嘉彦会員は日本の協力で建設された小学校を訪れ、子どもたちに日用品を配布しました。



国際理事に藤原氏当選

ASPAC大会ではキワニスの国際理事を決める選挙が実施され、日本から立候補した東京キワニスクラブ元会長・日本地区元ガバナーの藤原武平太氏が、対抗馬を破って当選しました。藤原氏はアジア・太平洋地区選出の国際理事として2023年9月まで活動します。日本から国際理事が出るのは故北里光司郎氏(2014年10月~2018年9月)以来となります。



金曜昼の例会、3密避けながら再開

東京キワニス金曜日に開催している「例会」は新型コロナの影響を受けて、3~5月まで休会に。6月に入り再開しましたが、3密を避けるため、丸テーブルを7~8人で囲んでランチ楽しむ従来方式から、教室スタイルの座り方に変更しています。



卓話一覧

- ルダシングワ真美氏 (ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト) ルワンダで義肢義足製作提供
- 三浦雅弘氏 (一般社団法人 事故ゼロ・フォーラム専務理事) 交通事故ゼロを目指して
- 田代秀敏氏 (経済学者 シグマ・キャピタル株式会社チーフエコノミスト) COVID-19パンデミックと中国
- 猪俣一則氏 (株式会社キッズ代表) 幻肢痛
- 桂小文治氏 (落語家) 暫し浮世を忘れて~寄席では聞けない噺家点描

国際大会など相次ぎ中止

新型コロナの影響でキワニスの内外のイベントも相次いで中止となりました。

- 開催できなかった主なイベント
- ・国際大会(6月、米インディアナ)
 - ・日本地区大会(9月、金沢)
 - ・東京キワニスの恒例行事
 - ・春の「子ども食堂」(3月)
 - ・ドールフェスティバル
 - ・ファミリーデー
 - ・青少年教育賞

新入会員紹介

- 伊藤正博 (いとう まさひろ) 入会日 2020年 4月30日

事務局便り

新型コロナの流行によって、事務局は通勤時の混雑を避けるため、まず時短勤務に。そのあと緊急事態宣言が出てからは原則テレワークに移行しました。事務局としても初めての経験でしたが、その間、緊急の寄付集めや、支援先探しなど、普段とは違う仕事にも取り組みました。

編集後記

「キワニス」の名前は、「Nun-kee-wan-is」(みんな一緒に集まる)というアメリカ先住民の言葉に由来します。新型コロナの感染が続く毎日。「会えなくても、心は一つ」と思いつつも、心配せずに「みんな一緒に集まる」ことができる日が早く来ることを願っています。

東京キワニスクラブ



Activity Report
活動レポート

Vol.38 / 2020.8 発行

発行 東京キワニスクラブ

〒101-0047
東京都千代田区内神田 2-3-2
米山ビル7階
TEL: 03-5256-4567
E-mail: tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp

新型コロナ流行しても「子ども達のために」

会員寄付で4つの支援事業、日ごろの活動のつながり活かす

新型コロナウイルスの感染拡大によって、学校が長期間にわたって休校になるなど、子ども達にも大きな影響がありました。そこで東京キワニスクラブは会員から寄付を募り、集まった寄付286万円を活用して、学生への返済不要の生活支援金の支給や、小学生へのお弁当の配布など、4つの「子ども支援事業」を実施しました(支援活動の詳細は2~3頁に掲載)。

今回の支援活動は、第1にキワニスの基本に従って「子ども支援」に集中、第2に「スピード重視」で支援が1日でもはやく届くように、寄付集めと支援先選びを並行して進めました。第3に支援先選びにあたっては、子ども食堂、寺子屋に来てくれている小学生、奨学金でつながりがある児童養護施設の出身学生、キワニスドールづくりに参加している看護大学の学生など、日ごろのキワニス活動の中でのつながりを活かして、「顔が見える支援」にこだわりました。

4つの支援事業

- ①大学生・専門学校生に生活一時金支給
- ②杉並・妙法寺で小学生に「お弁当」配布
- ③児童養護施設にパソコン寄贈
- ④小児科病棟の看護師さんにQUOカード贈る

ステイホーム期間中、活動にひと工夫

おうちでドールづくり 緊急事態宣言が出て、キワニスの会員も長い間、ステイホームを余儀なくされ、日ごろの活動が続けられなくなりました。そこで自宅でできる活動に知恵をしぼり、ひと工夫しました。

キワニスドールづくりは通常、大学・高校や企業などで多人数が一緒に作業していましたが、これに代わる「おうちでドール」活動に取り組みました。人形の形に縫った布と綿を宅配便で送り、会員が自宅で5体の人形の綿詰め作業を進めます。初めてドール作りに挑戦する会員、連休を利用して夫婦でつくった会員もいて、「新しい日常」におけるボランティア活動のヒントにもなりそうです。



ZOOMミーティング

例会や各種のイベントが軒並み中止となる中で、会員同士の交流の機会を確保しようと、会員有志がZOOMミーティングに挑戦しました。1回10人程度が参加して3回実施、毎回約1時間、コロナ禍の見通しや、外出自粛期間中の過ごし方など、さまざまな話題に花が咲きました。この経験を踏まえて、その後も、ZOOMを使って東京デイビジョン会議を開催するなど、オンラインを積極的に活用しています。

メールで「会員だより」

会員同士の情報交換を促すため、メールで「会員だより」を配信しました。SNSを使っていない会員も多いことから、事務局に意見を寄せてもらい、これを編集して「会員だより」として配信する方法をとりました。新型コロナ対応の寄付も、この中で会員から「ステイホーム募金」として提案があったのがきっかけで、これをどんな支援に使っていくか、会員から多くの意見が寄せられ、今回の支援の内容を決めるのに役立ちました。

東京キワニスクラブホームページ
<https://tokyo-kiwanis.or.jp>

東京キワニスクラブ 検索



① 生活支援一時金、大学・専門学校生 10 人に 10 万円ずつ

支援事業の第一弾は、大学生や専門学校生の生活を支援するため、緊急に一時金を支給するプロジェクトでした。アルバイトができなくなったり、保護者の収入がなくなったりして、急に生活が苦しくなり、退学も検討せざるを得ない—これは一刻も早く手を打つ必要があると考え、1人に10万円、対象は10人と決め、支援先探しを始めました。

まず、キワニス奨学生や、奨学金を申し込んだことのある児童養護施設に声をかけ、子ども食堂や寺子屋などで接点のあるNPOやお寺にも推薦をお願いしました。さらにキワニスドールをつくる会を開いたことのある看護学校に対しても学生の紹介をお願いしました。

この結果、アジア出身の学生2人を含む10人に支給が決まりました。

僕たち施設出身の学生を支援して下さい、ありがとうございます。大学の教育学部で小学校の先生になるための勉強に頑張っています。コロナの影響で対面授業が難しくなっていますが、意識を変えず、真面目に取り組んでいきます。
(ソベラノ・エイズさん)



ジーシー・プラサングさんとWAKUWAKUネットワーク栗林知絵子理事長

ネパールから来日し、今年大学に合格できましたが、コロナの影響でアルバイトを打ち切られて苦しかったので、後期の授業料に充てました。ありがとうございます。
(ジーシー・プラサングさん)

児童養護施設出身学生
青少年福祉センター
若草寮
星美ホーム
希望の家
おお里
(妙法寺の推薦)

豊島子ども
WAKUWAKU
ネットワーク支援学生

キワニスドールでお世話になっている看護学生
東京医療学院大学
東京慈恵会医科大学

② 寺子屋参加の小学生に「お弁当」配布、延べ300食

杉並・妙法寺で
2020年5/16、5/23、5/30(いずれも土曜日)

東京・杉並区の妙法寺で月に数回、開催してきた「寺子屋」と呼ぶ食事つきの土曜学習会。近隣の小学生が毎回、楽しみに通って来ていましたが、新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされました。

そこで妙法寺、地元のNPO法人すぎなみ子どもサポートと協力して「寺子屋弁当」の配布を始めました。5月16日、23日、30日の3回(いずれも土曜日)、これまで寺子屋に参加していた小学生を中心に予約制でお寺に取りに来てもらいました。キワニス会員が提供したお菓子や、お寺が用意したジュースもついていて、1食100円とあって人気を呼び、3回で延べ300食近くを配ることができました。



③ 児童養護施設にパソコン寄贈、オンライン学習に対応

全国の小、中、高校が3月2日から一斉に臨時休校となると、東京都内でもオンライン学習がにわかに課題となりました。1人1台の体制が整っているのは一部の私立学校くらいで、児童養護施設ではパソコンがそろっていません。そこで、オンライン学習に使えるパソコン寄贈のプロジェクトを立ち上げました。

2月のチャリティコンサートにも参加された日本システムケア(株)の家近茂社長からリユースパソコン無償提供のお話をいただき、共同事業として進めました。国際組織のキワニス子ども基金(KCF)からの助成金も得て、6か所の支援先を選び、搭載するOSやソフトについての希望や、WiFiなど通信環境も確認、7月に入って合計51台のパソコンが次々に届けられました。

支援先のひとつ、児童養護施設の若草寮(渋谷区)は「オンライン学習ももちろんだが、進学や就職の情報を調べるのにも役立つ」(加藤雄輔施設長)と期待しています。



若草寮ではさっそくパソコンの利用が始まった。

児童養護施設
青少年福祉センター
若草寮
希望の家
窓愛園
聖友学園
(千代田クラブ推薦)

豊島子ども
WAKUWAKU
ネットワーク

医療現場へ感謝

④ 小児科病棟の看護師さんにQUOカード贈る



亀田総合病院

「ありがとう、看護師さん」のメッセージと、キワニスドールのシルエットを描いたオリジナルカードを制作、贈り先はこれまでキワニスドールを使っていた病院の小児科病棟としました。1か所につき5万円だが、額面1,000円のカードを50枚ずつ贈ることで、看護師さん一人一人の手にわたるよう工夫しました。

QUOカード寄贈先

- ・伊那中央病院
 - ・癌研有明病院
 - ・亀田総合病院
 - ・群馬大学医学部附属病院
 - ・国立がん研究センター中央病院
 - ・国立がん研究センター東病院
 - ・国立成育医療研究センター
 - ・信州大学医学部附属病院
 - ・聖隷三方原病院
 - ・聖路加国際病院
 - ・千葉県こども病院
 - ・千葉大学医学部附属病院
 - ・東京医科歯科大学病院
 - ・東京新宿メディカルセンター
 - ・東京大学医学部附属病院
 - ・東邦大学医療センター大森病院 など
- 一部支援先には現金支給



伊那中央病院

キワニス奨学金 大学生ら3人卒業 4月からは専門学校生3人に支給

4年前にスタートした「キワニス奨学金」は、児童養護施設を単立って大学や専門学校に進学する学生を対象に、生活費を支援する制度で、3か月に10万円、1年に40万円を支給しています。

今年3月には大学生と、2人の専門学校生が同時に卒業し、社会人となりました。4月からは専門学校2年生(継続)に、専門学校1年生2人が加わりました。新型コロナウイルスの影響で、なかなか通常の学びが出来ない中で、それぞれ懸命に頑張っています。

この奨学金制度は、会員からの寄付に加え、チャリティコンサートを開催して、一般の方(会員外)からの寄付もお受けしています。

4年間にわたるご支援のおかげで無事、大学を卒業し、児童養護施設の職員になりました。という長年の夢をかなえることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。自分の将来について葛藤もあったし、人間関係に悩み、大学を辞めたいと考える時期もありましたが、支えられていることに感謝し、気合を入れ直してきました。キワニスの皆さまが繋いでくれたこの夢を本当の意味でかなえられるように、日々精進してまいります。

奨学生第1号、
松野花歩さんのメッセージ(抜粋)

